

学 友 会

会報

第9号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局
〒505 岐阜県加茂郡坂祝町深薮1301 ☎<0574> 26-7121



第 1 回 移 動 総 会

岡山県にて開催！

会報発刊にあたって



中日本自動車短期大学
学友会会長

本田 紳 基

本年も会報を発刊する運びとなり、会員のみなさま方におかれましては、残暑厳しき折り増々ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて平成元年度の事業計画も順調に実施されておりここに報告させていただきます。

母校においては、日本で最初に開設された車体整備コースも確実に軌道に乗ると共に時代のニーズに対応して最先端技術者養成の電子機械コースも順調だと聞き及び大変喜ばしく思います。また入学志願者数においても、社会の経済の流れと共に昨年も増して増加の傾向にあり、競争倍率も非常に高く、人間性、学力共優秀な人材が確保され、現在我母校が社会における重要な地位を着々と築きつつあることは大変誇らしく思われると共に、O・B諸兄の励みともなり、大変喜ばしく感じられる次第であります。

さて母校の母体である神野学園の姉妹校もますます発展のことを聞き及びこれもまた学園幹部の方々の教育における方向性の探求の姿がひしひしと感じられる次第です。母校も設立二十周年を節目としてより大きく飛躍されることを望んで止みません。

毎年会報にも記述しているように当面の学友会の重要事業は、支部の拡大並びに充実にあるわけですが、各支部設立準備委員の方々が多忙をきわめ足並みがなかなかそろわず、思うように支部設立が確立されていない実状であります。本年度は昨年につき、長野（松本地区）支部の仮設立を本設立化すると共に本年十一月には、愛知県支部設立に向けて着々と準備している所でございます。また本年度は、前記二地区の設立を図ると共に、三重・岐阜（西濃）・静岡・兵庫・長野（長野地区）・北陸

（二支部設立）・山梨並びに九州・四国地区においても、学友会組織の総力を上げ支部設立準備委員会の発足を支援・協力をお願いします。取り進めていく所存でありますので関係諸兄の一層の奮起並びにご協力をたまわりますよう心からお願ひ申し上げます。

また先般六月上旬には岡山県支部の五周年記念同窓会にお招きいただき、盛大に会が盛り上がり岡山支部役員の方々のご尽力には大変感謝いたしている次第でございます。なお昨年十一月に開催された、マイレτζマラソンにもお招きいただき、学内の関係者の意気込みに圧倒され大変感激しました。

さて、これまでに多数の海外留学生を母校は受け入れ、ご卒業されていきますが、その後各々自国の産業の発展のために活躍されておられることと思います。そういった会員の相互の旧友をあたため並びにおたがいの励ましも意味もふくめ、海外支部の設立も取り進めねばと考え現在ノウハウを模索中でありますので、ご協力願える方がおられれば、ご連絡下さればこれ幸いと存じます。

前述のように母校も開学二十周年を経、増々発展のことと思いま

すが、O・B諸兄の方々の中には現在社会的にも認められた地位に就かれた方々も多数あるかと思えます。どうか今後共、母校の発展のため後輩の就職並びに入学希望者（血縁者）の推薦等、母校との結びつきを一層強固なものとし、母校共々増々の繁栄を念願致

学長の挨拶



中日本自動車短期大学
学 長

平野 峻 嗣

学友会（卒業生）の皆様、お元気ですか。

中日本自動車短期大学は、教職員一同、新しい二十一世紀という時代に向かって、新キャンパス・新教育システム（国際化を含む）と国家試験合格率九十パーセント以上を目指し、日々頑張っています。

私はOBの皆様と、本学に就職の件で訪れて下さった時や学友会、あるいは人生の悩みなどで訪問を受ける時などに、お会いする機会をもつのですが、今が一番、OB

して止みません。最後になりましたが、今回の会報発刊にあたり、暑い中、多大なるご協力ご支援を賜りました大先輩諸君並びにO・B諸兄、特に学内に在籍のO・B諸兄に対して心より厚くお礼申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

の皆様にとって油ののった時期に入っているなど、その輝きに喜びを感じている訳です。

私共教職員にとって、教育の真の目的である「人間形成」は、なかなか「形」の上で表われてくれないもので、辛い日々を送っております。

しかし、皆様には、自分の努力や目標が「形」で表れる喜びがあります。また、私共にとっても本学の教育成果を、せめて「形」であらわしていただけるのが、OBの皆様活躍です。

今後、私も、私どもは「活力ある学園づくり」の為に、より一層の努力をしていきます。その力の源になつていただくためにも、OBの皆様の大なる活躍を期待して、このたびのごあいさつとさせていただきます。

認定試験合格率

技術研修室

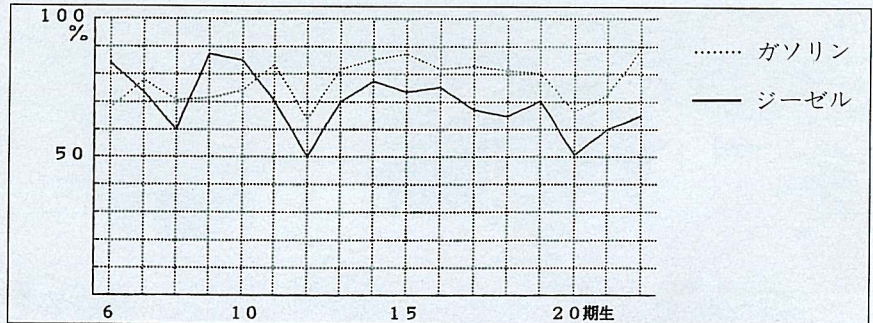
毎年、卒業式後の三月第四日曜日、自動車整備士認定試験が行なわれます。卒業生の皆さんもこのときばかりは一生懸命頑張つて勉強したことと思います。一昨年から実力試験を実施して学生の實力の把握及び弱点分野の強化を計っています。しかし最後は本人の自覚に拠ります。

今年の卒業生の合格率はジーゼル六五・二％で平均を若干下回ったものの、ガソリンでは、八九・二％と平均を大きく上回り過去最高の結果となりました。努力し頑張った学生諸君は、合格証書を手に入れることができたことと思います。

今後、中日本自動車短期大学の卒業生として、また社会の一員として頑張ってください。

就職だより

最近の日本経済環境や自動車業界を取り巻く情勢をみると、ここ数年特に「いざなぎ景気の再来」といわれる好景気が展開され



どの業界も求人難の時代に入っています。

本学でも、求人数の過去最高を毎年大幅に更新し、それに付れて今まで求人がなかった企業からも多数の求人が来ています。

具体的には、今まで短大卒の技術職の採用をほとんどしていなかった企業から複数の求人がきたり技術職でしか求人のこなかった企業が技術職でも併行して求人依頼があったりと、見方によっては異常現象に近い状態にあるのが昨今の実態です。

また一面では、求人先の広がりからディーラー離れが進み、ディーラー以外の実績も顕著に伸びを示しており、この傾向はあと数年は続くものとみています。

そういった状況の中で、さまざまな問題点も指摘されています。ひとつは、学生の漫心が企業に色々な迷惑をかけた、かたや企業も「ぶんどり合戦」の様相で半ば強引に学生を引きつけようとする傾向が窺えます。

そんな中で昨年度の実績をみると、七十二％前後が自動車販売会社の就職で、残りの二十八％はメーカー・保険・設計など自動車産業全体に広がっています。

恩師からのメッセージ



教授
大塚三雄

校友会の皆さんこんにちは。体育を担当している大塚三雄です。覚えていますか(当時 勝新太郎、現在 阿部譲二の愛称)。

私と皆さんの出会いは昭和四十二年でした。当時の本学は不備な施設で不満ばかりでした。現在一流の施設(少し言い過ぎかな?)です。一期生の皆さんからすると現在の学校の環境は『天と地』の違いですが、これは仕方ないことです。我々教職員も本学が他の自動車短大に負けないよう現在まで頑張ってきましたが、学校を愛する多くの人々の努力の賜物でもあります。

さて、お父さん、お母さんになられた卒業生の皆さん、子育てはいかがですか。今年は皆さんの二世が本学を受験され、びっくりするとともに深い感慨を覚えました。先程申しましたように本学としても諸君のご息を預かって恥ずかしくない大学の施設になってきました。是非とも受験し入学せら

れることを希望します。

さて、私が創設当時を思い出すと、ひどい施設での授業でした。開学当時は、グラウンドがなく校舎の片隅にある一式の鉄棒で授業をしました。したがって学外にて実技の授業は大学のスクール・バスで二十分位の所(前平ランド)でおこなわれたことを覚えていいます。野原に野うさが飛び跳ねている場所でした。諸君も飛び跳ねていましたね。楽しいとか哀しいというか今では良き思い出の一つでしょう。

私もこうしてペンを取ることによって、二十数年前をしみじみ思い浮かべています。現在は大違いです。立派な体育施設として十五年周年記念事業の一貫で総合運動場が完成され、野球・サッカー・陸上(一周三百米)トラックをとることができるようになりました。毎年十月中旬の大学祭には運動会を実施しています。七百余名(教職員全員含む)が参加し盛大に実施しています。教育棟実習棟その他の施設も充実し、在学生もスポーツに勉強に頑張っています。なお皆様にお願ひですが、本学の二年生が就職活動で先輩諸兄に大変お世話になっていると思いますが、良き

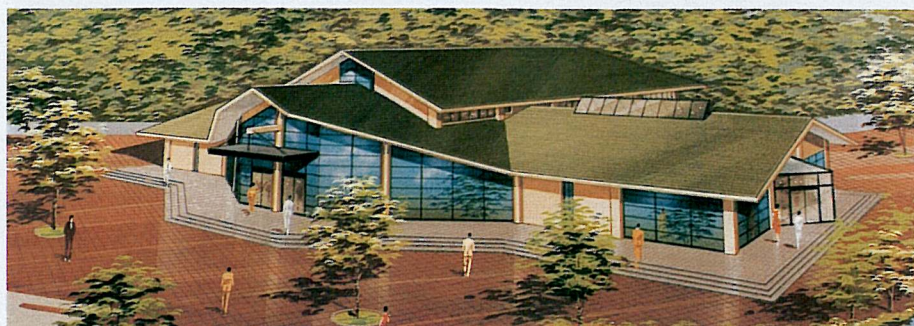
ご指導を宜しくお願い申し上げます。また、ご健康をお祈り申し上げます。懐かしい皆様のお便りを待っています。

学生ホールの建設計画

昭和五十七年五月制定された中日本自動車短期大学十カ年計画に基づき、今日までに学生寄宿舎、新教育棟、新実習棟、総合グラウンドなど、教育環境の整備充実に積極的な取り組みが行われてきました。今後も図書館、事務棟、学生ホールの建設計画が議論されておりますが、今回は学生ホールの計画についてご紹介します。

この件につきましては、学生の厚生施設という点で早期の建設が望まれていたところですが、その程その建設概要がまとまりました。キャンパスの中心に位置し、できるだけモダンな外見で学生が気軽にくつろげるレイアウトというコンセプトです。

全体の構造は、完成予想図の通り二階建てで、総床面積は一四四坪です。一階フロアは食堂(二五〇席)とラウンジ(一五〇席)を設け、二階フロアには保健室、学相談室、会議室、学友会室など



の施設を備える予定です。現段階では、名称や着工時期など具体的な計画は未定ですが、ここ数年の間にはキャンパスのシンボリック存在としてお見せできることと思います。

在 学 生

今回は、現在々々中の、一年生一名と、二年生三名に登場してもらい、本学に対する感想、学生生活、将来についてレポートしてみました。



竹内 幸栄 (二年)
愛知県 知多高校出身

私がこの学校を決める時には、とても悩みました。動機は、整備士になりたいからという単純なものでした。友達や母親は、あまり賛成してくれませんでした。担任の先生にも、

「夢を追うことは目標があって良いことだが、早くから一つのことには目が向かない人間になるのはこわいことだ。」

と言われました。でも、入学して一年たった今、本当にこの学校に入って良かったと思います。普通の女子短大に行っていたとしても、私はこの夢を捨てきれずにいたと思うからです。

大学での学生生活は、高校の女子クラスの中で過ごした私にとっては、今までとあまりに違いすぎるギャップの大きさがありました。



高橋 知子 (二年)
千葉県 白井高校出身

去年の春に岐阜へ来てからもう一年がたちました。私にとってこの一年は早かったと思います。

一年がたった今、私は男子学生に囲まれた大学の中にデンと腰をすえてしまっています。入学時には考えられなかった事です。

この大学に来て、他の女子大等の人と少し違った環境や考えを持てたことは自分にとってプラスになったと、最近感じています。

入学時の私は目標というものが特になく、何となく気づいたらここへ来ていたという感じだったのが就職活動が始まったときとても悩んでしまいました。でも最近、先輩や先生の話の聞いたりして、だんだん先の事が考えられるようになってきました。先輩達がそれぞれががんばっているのを聞くと、

一年たった今では、とてもいいところのいい場所となりました。新しい世界を得て、私自身の幅も広がったと思います。この学校での二年間の生活は、私の人生の中でもとても貴重な経験になりそうです。



高橋 正則 (二年)
新潟県 小千谷高校出身

昨年、入学後間もなく、私は、省エネ研究クラブに入部し、現在は、部長として活動しています。

「省エネ研究クラブ」というのは、「二つのガソリンで、どれだけ長く走れるか」という熱費の限界に挑戦するクラブです。

私にとってのクラブ活動は、初めて経験することばかりで、毎日が勉強という感じです。特に、金属を加工ができるようになったのが一番の収穫です。鉄を切削したり、曲げたり、溶接したり、「鉄は硬いものなんだ。」という固定観念がなくなりました。まあ、実際は硬いものですが……。

クラブ活動をしていて、苦労する時もありますが、クルマが完成した時は、嬉しくてしかたありません。それに、マイレージマラソ

ンや、本田エコノパワー大会などいろいろな大会にも出場し、大会に出場することの難しさや、すばらしさを学びました。

学生生活に、悔いが残らないように、今年の大会では、良い成績をおさめられるように、頑張りたいと思います。



溝田 信一
(二年)
愛知県
旭ヶ丘高校出身

中学のころに初めてバイクに触れました。自転車が唯一の移動手段であった自分にとって、とてもすばらしいものだと思いました。しかし、興味だけが先行してしまい、知識もないのにエンジンを分解してしまったため、二度と元の調子を取り戻すことなく、ただの粗大ゴミとなってしまいましたあの時のくやしさは今でも忘れられません。そして本学へ入学しました。もともと機械関係は好きでしたし、興味もあるので多少の困難は乗り越えて行けるのではないかと考えています。好きな事ができるという事は、自分にとって最高のことだと思えます。そして何よりもうれしいことは、本学には自分のような学生が大勢いるという

ことです。まわりに仲間がいることほど心強いことはありません。高校時代には味わえなかった仲間意識を感じられることも、とてもうれしい。短大ということで二年間しかありませんが、楽しく学生生活を送りたいと思っています。

OB近況

東京海上損害調査係

一九八八年三月卒

加藤 龍実 さん

車が大好きだった。だから中日本へ入学。いつのまにか、車に対する考え方が高校時代のそれとは違っていた。外見ばかり追っていた高校時代。大学に入りメカを知ると、車に対する思い入れが生まれてきたのだ。エンジン一つにも愛情を感じてしまう。

あれから二年。自分は今、損害保険の調査会社で働いている。中日本に入るときには思いもしなかった就職先。現在の仕事は、事故にあった車の修理に必要な金額の見積りを立てること。事故は車同士がぶつかったものだけでなく、エンジンの焼き付きといった車自体の故障によるものもある。そんなケースの場合、中日本で学んだこ

とが一〇〇%生かされていく。日本の先生からよく言われていたっけ。

「大学生はもう社会人なんだ」

今、それを実感している。

今の会社では大勢の社員が働いているが、仕事は一人ひとりが個別に進めていく。それだけに、取引先の人に顔を覚えられ、気軽に声をかけてもらえるようになっていくときが一番楽しい。今後人間関係の幅を広げ、仕事にもプラスとしていきたい。

中日本には全国各地から学生が集まり、そして友となった。それも中日本で得た財産の一つ。今は、ただ懐かしく、「ありがとう」と言いたい。中日本に。

三菱自動車エンジニアリング係

一九八九年三月卒

廣瀬 健治 さん

中日本での授業で最も印象に残るのは、やはり実習。高校時代からやってみたかった内容——エンジンの組立などは心がワクワクしたものだ。そして、自分で組んだエンジンが始動し始めたときのあの感動……。素晴らしいものがあつた。あの感動は、仕事をしていく上で、永遠に忘れてはならないもの

のだと思っている。

現在、生産車の排出ガス採取検査に携わっている。車に触りたいという思いを重視し今の会社を選んだだけに、小型トラックから乗用車にいたるまでのいろいろな車の排出ガスを測定、車の心臓部であるエンジンの正確な動作を確認して、社会に送り出していることに喜びを感じる。そう、中日本の実習で味わったあの感動の再来だ。

将来は、新しい車の開発にも関わってみたい。そして夢は、レースのピット作業に携わること。夢は大きい方がいいし、いつまでも持っていたいもの。だって、車は人間の夢の象徴なのだから。

アイシン精機係

一九八九年三月卒

橘 正信 さん

中日本には、僕と同じ思いの人間が大勢いた。みんな、自動車が好きだ、という仲間。授業以外にも、その仲間とのコミュニケーションから車に関する知識を吸収することも多かったものである。

コンピュータ実習室の充実にも驚いた。そして、卒業時には基本的なことをマスターしていた自分。これは、入学前には考えられ

なかったことである。時代はコンピュータ全盛。これも、中日本で学んでよかったと思うことの一つだ。

また、専門学校ではなく短大を選んで正解だったのは、一般教養にも力を入れていたこと。数学、物理、社会学……様々な分野を学ぶから、途中で将来の進路の方向を変えても、対応がきく。そして、社会に出ても一般教養が生かされる。

一生の問題である就職。僕は、整備から製作する方へ、と方向転換してみた。現在、当社で作った製品——トランスミッション、ブレーキ、ウォーターポンプなど自動車部品——の性能耐久テストを中心にやっている。就職してまだ一年。今は仕事を覚え、こなしていくことで精一杯の毎日。仕事に対する夢は、これから生まれてくるだろう。

元県議で名誉学長 武藤六三郎氏死去



元県議で自民党県連副会長などを歴任した名誉学長の武藤六三郎氏が二月二十八日岐阜市の千

手堂病院で死去した八十一歳（岐阜新聞平成二年三月一日号より抜粋）心より御冥福をお祈り致します。

立松和平氏を迎えて 校友会主催の講演会開催



開学二十周年も過ぎ来たる二十一世紀にむけてさらに飛躍を旨とする当学の後援を得て

校友会では十一月十四日（水）に作家立松和平氏を迎え講演会を開催する事になりました。聴講ご希望の方は入場整理券が必要ですので事務局までご連絡下さい。

プロフィール

早大政経学部卒、四十二才。主な著書「遠雷」「うんたまぎる」など多数。TV「ニュースステーション」旅シリーズのレポーターとして活躍中。自動車にも強い興味をもち、香港・北京ラリ（クラス優勝）、パリ・タカールにも出場。行動的な面と素朴さを兼ね備えたユニークな作家として有名。

日時 平成二年十一月十四日（水）

PM6:00～

演題 旅に学ぶ

場所 美濃加茂市文化会館

事務局（電話）二六〇七二二

（担当 井戸）

岡山県支部

について

前岡山県支部支部長

山脇 健二

私が始めてこの校友会会報に、記事を書かせていただいたのが昭和六十一年の支部設立のご挨拶でした。早いものですでに五年がすぎました。当時、全国で沖縄県支部、広島県支部に続き三番目の支部として設立をさせていただいたのが昨日のことのように思われます。

設立にあたっては支部長という大役を受け戸惑いと、責任感でいっぱいでしたがなんとか今日までやってまいりました。これも一重に私を支援して下さった本部役員並びに支部役員の方々の御助力の賜物と改めて痛感する次第です。

さて、この度六月十日に行われました支部総会及び同窓会において予てより審議してました支部役員の方々の改選において私の大役を若い方にお願ひする運びとなりました。新支部長は、十五期卒業の春名伸吾さんです。

彼は学生時代から岡山県人会の会長を務め同級生からの信頼も厚く多くの推薦もあり安心してお願いできました。支部長交替に伴い

役員相互の連帯を強化するということから役員も十五期生中心に交替が行われ若返りを計ると共に今後より一層活発な支部活動を期待してやみません。

今年十月には校友会本部の第一回移動総会・同窓会が岡山で開催されるということです。

支部にとってもこのような大きなイベントを行うのは初めてでこれから緊張の毎日ですが新旧役員総力を上げてのぞんでいく次第であります。どうか皆様その節にはご協力くださいますよう宜しくお願いいたします。

最後に五年間という長きに渡りいろいろお世話になった本田会長をはじめ本部役員及び支部役員の方々のご協力を感謝し私の挨拶とします。

新支部長挨拶

岡山県支部支部長

春名 伸吾

この度六月に行われました支部総会の席上役員改選に於いて私が岡山県支部支部長という大役を受けることになりました春名伸吾です。

私は十五期卒業で現在、英田郡作東町で自営（春名自動車商会）

を営んでいます。在学当時は、岡山県出身者十数名で岡山県人会を作り会長を務めさせて頂きそして又この度、支部長に任命され戸惑いを感じながらも精一杯やり遂げてゆくつもりです。

現在支部の会員数は三〇〇名を数えその半数以上は私よりも年上の方ばかりです。若輩者の私が先輩諸氏をさしおいて支部長というのは何か心苦しい点がありますが、どうか皆様の温かい御指導、御鞭達を頂き岡山県支部を盛上げて下さるよう宜しくお願い致します。

さて、当面の課題としましては前山脇支部長が行ってきた年一回以上の総会・同窓会の開催、会員名簿の整備を主にし又、母校とのつながりをより深いものにしたく思います。

総会・同窓会については継続して行いたいと思いますが案内状の送付において相当数の住所不定がありますのでこれから特に力を入れて名簿の整備に取組んで行きたいと思ひます。母校とのつながりは具体的には支部会員がツアー形式で母校を見学し恩師の先生方と歓談できたらと現在思案中です。

今年は十月二十八日に本部の移動総会が岡山で開催されます。

新任の私にとってあまりにも大きな行事だと思ひますが全力で取り組み何とか成功させるよう努力する所存ですので関係諸氏には何かと迷惑をお掛けすることがあるかと思ひますが何卒宜しくお願い致します。

最後に私、個人の意見ですが聞く所によると現在岡山県出身者の在学生が少なく聞いております。私もOBにとりましては寂しい限りです。県内にも自動車整備関係の学校ができたというのも一因だと思ひますが、どうか母校の先生方岡山県出身の入学者が増えるよう宜しくお願い致します。

お願い方々私の挨拶にかえさせていただきます。

学生自治会から

大学祭のお知らせ

初めまして、私は、第二十四回中国本自動車短期大学祭実行委員長の原田敏です。

自短祭も今年で二十四回目を迎える事になり、これも一重に、OB諸兄が積み重ねてこられた努力と実績の賜物だと、在学生一同確信致しております。しかし、残念

な事に自短祭は、毎年盛り上りに欠けているのではないかとOB諸兄、諸先生方に聞かされてまいりました。そして、昨年の自短祭も例外ではなかったように思われます。

昨年のプロコンサートにおいては、CMソング等でお馴染みの「ゴーパンズ」に巡り会え、本学体育館の座席を総て、うめつくす程のお客様に会場頂き、開演中は場内熱気ムンムンで最高に盛り上がりました。それに加えて昨年は、レーシング部の催しで、レーシングカー（ル・マン出場のチャージマツダ等）を展示し、入場者も八百人と、大成功をいたしました。今年も同様な企画を考え、キャメルロータスホンダ（F1）を呼べる様にと頑張っております。

今年の自短祭を活気あるものとするために、昨年スタートした、レーシングカー展示、恒例のプロコンサートをより良いイベントとするため、大学祭実行委員はもちろん、各クラブ、同好会と一同各種イベントに全開で取り組むために今回のテーマを『フルスロットル』と決めて頑張っているところです。

OBの皆様、御多忙中恐縮とは



思い出シリーズ

第24回 中日本自動車短期大学 自短祭日程表

10月19日(金)～22日(月)

19日(金)	開 前	会 夜	式 祭
20日(土)	体 映	育 画	祭 画
21日(日)	プロ レー シ ン グ カ ー 展 示	サ ー ト 展 示	店 式
22日(月)	模 擬 会	閉 会	

存じますが、先輩・後輩・同輩お誘い合わせの上、思い出多きキャンパスにお越し頂きたくお願い申し上げます。皆様の来訪を在学生一同、心よりお待ちしております。

今年第二十四回大学祭を迎える事が出事、四分の一世紀が立ちました。卒業生の皆様が、日本国内だけでなくアジアなど多くの国々で御活躍なさっておられますことを覚え感謝と喜びに溢れます。

大学新設当初は、「大学に入っても泊る所が無い」と、私共の古い家まで使っていたきました。又日曜日になりますと、私達は下宿探しの御父兄の方と遠く大山までも探して歩いたものでした。「地獄で仏に会った様だ」と喜んでいただけたものでした。

やがて小さな店も出し、食堂が一軒も有りませんでしたので、何も出来ない小母さんが作ってあげましたね。近くの下宿生もいらして下さり懐かしく思い出します。

一番困ったのが電話でした。黒電話一台でいつも話し中でした。

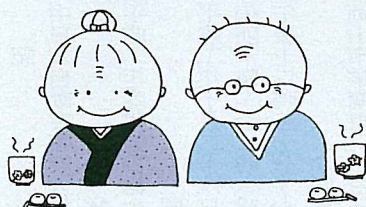
いろいろ運動して四台一度に公衆電話の入った時の喜びは忘れられません、又店の前に自販機を入れて欲しいとかバス停を作ってくれとか、大学の入口に信号機を付けて貰って欲しいとか、学生の要望に答えて、岐阜乗合とか、関係ある方々に運動して歩いたものです。信号機は、大学が行き止りと言う事で宝来屋さんの前に設置され、

一麦社の前の事故も随分少なくなりました。一麦社は、学生の要望に答えて自然に大きく育てられ大学と共に成長して参りました。今でも大勢の学生さん達が焼そば、天ぷら、御飯、ラーメン、ジュースなどお昼は、いっぱいの人です。雑貨やお菓子なども買って頂きたい感謝でいっぱいです。

小父さん、小母さん、おばあちゃんもとても元気で一麦社も健在です。

「今年このような機会が与えられて、皆様とお会い出来ます事を嬉しく思います。」

自動車業界で働く皆様、どうか交通事故対策に献身し、事故の少ない幸な社会を築いて下さるよう、お願い申し上げ皆様の上に豊かな神様のお恵を心からお祈り申し上げます。



1990年度 学校行事

4月●入学式(6日)

●オリエンテーション(7・9日)

●交通安全講習会

●前期講義開始(10日)

●健康診断

6月●父兄懇談会

7月●献血

●前期定期試験(25～31日)

8月●夏期休暇

(8月1日～9月15日)

●海外研修旅行(20～28日)

9月●オリエンテーション(17日)

●2級自動車整備士技術講習

開講式(18日)

10月●後期講義開始(1日)

●大学祭・体育祭(20～22日)

11月●スケート教室

12月●冬期休暇

(12月21日～1月10日)

2月●後期定期試験(4～9日)

●スキー教室

3月●卒業式(15日)

●2級自動車整備士認定

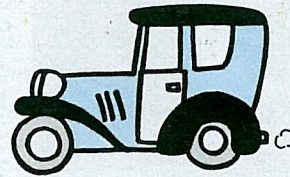
(学科)試験(24日)

“20周年記念 会員名簿” のお知らせ

私たちの学友会も発足以来二十数年たち、会員数は一万数千名となりました。時代も昭和から平成となった今、一つの区切りとして一期生から二十期生(昭和六十四年度卒)までの“二十周年記念会員名簿”を作成しました。購入方法は同封の振り込み用紙をご利用願います。(価格は送料込み三千円)尚この名簿は毎年みなさまに発送する会報の住所を基に毎年整理したものによります。今後とも住



所、氏名、勤務先など変更が有りましたら同封のハガキにてご連絡願います。(学友会名簿委員)



代議員 改選の告示

一九九〇年度の代議員改選を代議員総会において行います。代議員の任期は二年間です。学友会活動に協力かつ積極的に参加していただける方々を左記要領に従い、多数ご推薦下さい。

記

推薦期間 一九九〇年八月十五日
〜 九月十六日まで
受付窓口 学友会事務局 又は
学内代議員

尚、詳細については学友会事務局(〇五七四二六七一二)までお尋ね下さい。

学友会事務局 岡田

代議員総会・ 同窓会開催の お知らせ

平成二年度代議員総会・並びに同窓会を左記にて行います。

今年度は、学友会としても初の試みでもありますが、先般役員会で決議されました「支部の活性化を計る」ということから、その第一貫として、総会・同窓会を全国の各支部で行なうという運びとなります。まず第一回目として、活動の著しい岡山県支部にお願いすることになりました。代議員各位は必ずご出席下さいますようお願い致します。又、一般学友会会員(卒業生)のオブザーバー参加も大いに歓迎しますので、ふるってご参加下さい。

尚、総会終了後同窓会を行ないます。今回は岡山ということでの近郊、特に、兵庫・広島・鳥取・島根・香川県の方々の参加をお待ち致しております。当日は楽しいアトラクションの他、恩師の先生方も、多数参加して頂く予定ですので、皆様お誘い合わせの上、多数ご出席下さいますようよろしくお願い致します。

名称 記
中日本自動車短期大学

学友会
平成二年度代議員総会

日時

平成二年十月二十八日(日)
午前十時〜十二時(総会)
午後十二時三十分〜十五時
(同窓会)

会場

岡山市学南町一丁目三二二
カルチャーホテル

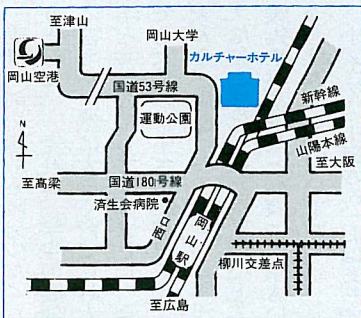
(TEL)

〇八六一五三二二三三

議題

- 一、平成一年度事業報告
- 一、会計報告
- 一、役員改選
- 一、平成二年度事業計画
- 一、その他

会費 三〇〇〇円 (同窓会)



編集後記

『情報化に時代』と並んで、昨今、特に使われることの多い言葉が『国際化時代』でしょう。国際的に高い地位にある日本産業界の活躍は自動車産業によるものに他ならないだけに、国際感覚、国際理解がこれからの技術者に要求されるのはいうまでもありません。

本学では、今後ますます国際色を豊かにする自動車産業の主役を担う技術者の育成を目指し、キャンパスにいながらにして国際性が身につくという理想に一步でも近づくよう海外ハワイ研修の実施、海外技術研修生の受け入れ、留学生の入学等国際的な学術交流に積極的に取り組む、国際的視野に立った教育を行っています。

学友会においては、第一回移動総会が岡山県にて開催される等今後増々の発展が、伺われます。それと同時に、おかげ様で、学友会会報も第九号を発刊することが出来ました。

発刊にあたりまして、御協力いただいた皆様方に心より厚く御礼を申し上げるとともに、ご活躍を祈念して編集後記とします。